

平成31年1月22日(火)

### 今後の方針

センター試験後、実は何を学習すべきかについては、私立への対策、前期二次試験対策、後期試験対策等それぞれ細かく言うと際限がないが、実は方向性は決まっている。過去問を徹底的に対策するのである。

受験校の過去問を20年の幅で対策することによって、大きな傾向と出題の流れが把握できるし、同じような地方大学や、その大学のある地域圏の同じ学部の大学の傾向まで把握することによって、どのような考え方で出題に至っているのかを把握することができる。

過去の例では、宮城教育大学を受験した生徒が、22年前の過去問と同じような問題が出たとか、首都圏の看護学部の受験に際して、近くの県立大学の同じ学部の問題に似たものが出たとか、その経験値は必ず学校に残っているのである。

特に、二次試験が小論文である場合は、毎年苦勞して出題する教授助教授の考え方が背景にあるのだから、前年度のねらいで十分でなかったところなどその反省を生かして出題されるであろうし、論点の設定の仕方とその課題分析力の展開について、出題者を納得させることのできる中身は過去問にヒントがあるはずである。

明治大学は、明治大学の矜持(きょうじ プライドのこと)をもって、作問されるだろうし、立教は立教の、早稲田は早稲田のプライドをもって問題が作られるはずである。

自分の経験値でいえば、数学の第一問をものすごく解答しづらくしている慶応の罫にはまって、残りの問題に手を付けずに終わってしまったことがあり、翌年の赤本には、この問題は解きづらいので、最後に手を付けるべきであり、その後の問題は比較的解きやすく、8割を確保できれば合格圏内となるなどという解説がついていて、地団太を踏んだ覚えがある。

磐城高校は、過去20年以上前からの赤本がそろっている。また、難関国立大学の青本もすべてそろっている。まさしく、この学校は、受験生にとっては宝の山である。

しかし、そのことを、図らずも知らないのだから、十分に生かしていないという心配が多々あるから、必ず教科担任や、樋渡先生を始めとする進路指導部の先生方の教えを受けてほしいのである。

ちょっとでも見たことがあるという問題に出会ったら、これは、それだけで大きな自信にもなり、二次試験が楽しくてしょうがなくなることも必定である。

また、前期がうまくいなくても、後期試験を受けることは本当に大切なこ

とで、仮に後期合格者の辞退があると、後期試験を受けている者の中から選別され、追加合格になることを知っていてほしい。私立の手続きが済んでいるから、実際これはよくおこることなのだ。アパートも決まっているので、今更地方国立大学より、首都圏の私立に行こうとするのはいつの時代も同じことである。現役ならそれでもいいと親御さんも考えるはずで、そこに大きな狙いは隠されているのだ。

まさに、受験は、3月31日が終わってみないとわからないものだ。

出題者の心理を読んで、受験生の心理を読んで、構造的に分析し、その対策を取り、まさに人の心の動きを察して、受験の荒波をこぎ分けましょう。

まさに、これからやることはいっぱいあるのです。頑張ってください。

桜咲く日まで。花咲く日まで。必ず花は咲く。

